



巻頭言

第37回 近畿作業療法学会 学会表彰
3演題受賞!!

副会長 関本 充史 (株式会社かなえるリンク)

去る10月1日に、第37回近畿作業療法学会が奈良県文化会館にて開催されました。今回、学会表彰において、当士会会員の池上 聡子さん(医療法人清風会 就労支援センター オンワーク)が「企業とともに精神障害者の就労を支える～20年のブランクがあっても働けるための支援とは～」の演題で学会長賞、田丸 佳希さん(四條畷学園大学 リハビリテーション学部)が「利き耳・非利き耳側からの聴覚刺激が姿勢制御に与える影響～足圧中心(COP) 総軌跡長・矩形面積・外周面積に着目して～」の演題で優秀賞を受賞されました。おめでとうございます。また、大阪府立大学と大阪府作業療法士会と共に、泉南郡岬町の通所型サービスC(短期集中予防サービス)のモデル事業として取り組んだ「介護保険サービス未利用者の要支援認定者に対する自立支援のための生活機能改善プログラム」を当士会より演題発表したところ、最優秀賞を受賞致しました。当士会会員が三演題も一度に受賞できたことは、府民のために日々作業療法を実践している証だと思います。また、最優秀賞を受賞できたのも、大阪府立大学と大阪府作業療法士会と臨床現場に協力してくださった会員の皆さんと、何より泉南郡岬町の方々がこのような機会を下さったからこそです。この場を借りて御礼申し上げます。

今回の演題では、企業とタイアップしての就労支援への取り組み、聴覚刺激による姿勢制御における研究、介護予防・日常生活支援総合事業への取り組

みであり、今回の学会テーマである「作業を考える～クライアントにとっての意味とは～」に沿った演題でした。閉会式では東條秀則学会長は、シンプルな学会テーマとおっしゃっていましたが、それこそが一度立ち止まって作業療法を見つめ直す機会となり、対象者にとって必要な作業療法は何かを考えることができたのではないのでしょうか。特別講演では、吉川ひろみ先生(県立広島大学 保健福祉学部)が「作業の意味をどう考えるか」をご自身の経験と照らし合わせながらわかりやすく「作業」について講演してくださいました。その中で、作業療法は、対象者自身が意思決定したことを実現するためにサポートすることだけでなく、意思決定に至るまでもサポートすることの重要性も教授下さいました。

医療保険領域、介護保険領域、障害者総合支援領域、児童福祉領域、養成校、行政等それぞれの分野で会員の皆さんは活躍して下さいます。どの分野においても、学会発表することが目的ではなく、学会発表を通して、日々の作業療法を振り返ると共に研鑽し、住民のために活かせるものにする必要があります。12月3日には第32回大阪府作業療法学会が松本 茂樹学会長のもと開催され、平成30年7月22日には、第38回近畿作業療法学会が辻 薫学会長のもと開催されます。

他施設や他職種との取り組みや研究を発表して頂き、活動と社会参加へ作業療法の有用性を積極的に提言して頂くことを願います。